

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	遠軽町社協ぐる一ふほ一む春來	評価実施年月日	平成20年4月21～22日
評価実施構成員氏名	松田 仁美 ・ 示村 友美 ・ 尾崎 郁子 ・ 平井 裕子 ・ 三浦 麻衣 ・ 渡部 充		
記録者氏名	渡部 充	記録年月日	平成20年4月22～24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念としては、『このまま そのまま ありのまま』 具体的には、 ① 共に生活する ② つながりを大切にする ③ 幸せと思える暮らしが出来る という事を掲げ、職員間で確認し合っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・職員採用時には、理念を伝えている。 ・職員が理念を意識できるよう事務所に掲示している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・入居時には、家族に理念を伝えている。 ・地域の行事には積極的に参加し、家族へは定期的に事業所の様子を伝えている。	○ 今後、地域の方たちの福祉や困り事を気軽に相談できる場として事業所を開放していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・散歩や買い物などの時、近隣の方たちと挨拶を交わしている。 ・作物等がとれた時には、おすそ分けを頂いている。 ・年に1回、近所の方たちとバーベキューをしている。 ・月に1回、デイサービスを利用している人たちと交流している。 ・毎日、スーパーに入居者と職員で買い物に出掛けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・自治会に加入し、葬儀等の手伝いをしている。 ・町内会の行事(盆踊り等)に積極的に参加している。	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・実践者研修等の実習生の受け入れをしている。 ・災害時には、近隣の方たちの避難場所として活用してもらえる体制をとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<input type="checkbox"/> 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の結果を職員ミーティングで話し合い改善に取り組んでいる。	
8	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の内容や取り組み、今後の課題について話し合ったり、地域情報等を提供して頂いている。	
9	<input type="checkbox"/> 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的に開催されている地域のケア会議に参加し、情報の共有やサービスの内容について検討し合っている。	
10	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員の中に社会福祉士を配置し、必要な時には、その制度を利用できるようにしている。	
11	<input type="checkbox"/> 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員ミーティング時、高齢者虐待防止関連法等について話し合いを行っている。	<input type="radio"/> 積極的に研修等に参加し、職員全体が自ら考えながら日々のケアを実践できるようにしていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の訪問を数回を行い、重要事項の説明を充分に行い、了解を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・入居者の言葉や態度から本人の思いを察し、職員ミーティング等で話し合いをしている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>・隔月で広報誌「春來通信」を出すとともに金銭出納帳の写しや領収書を送付している。</p> <p>・家族の訪問時には、暮らしぶりを伝えている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・家族からの相談、苦情については、契約時、窓口等の説明を行い、いつでも受け付けられるようにすると共に速やかに改善するよう努力している。</p> <p>・家族の訪問時には、職員が意見を聞くようにしている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・職員ミーティング時に意見を聞いたり、個別の意見や苦情を相談しやすいようにしている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>・可能な限り、入居者や家族の要望に柔軟に対応出来る様職員体制を調整している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が大きく入れ替わることがない様、努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に研修や勉強会に参加するようにしている。	○	当法人が主体となり、積極的に講師を招き各事業所の人材育成に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム勉強会、交流会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	調理担当職員を配置したり、夜勤を2名体制にする等、通常より手厚い勤務体制にする事で負担を軽減するよう努めている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	福利厚生の実施を図っている。(資格取得助成金・健康管理助成金等)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の訪問を数回行い、本人から話を聞いたり、利用前にお試し利用をして頂く事で、環境や職員に馴染んでもらえるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の訪問を数回行い、本人とは別に話を聞く機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には、自分たちだけで判断せず、地域包括支援センター職員や町保健師に意見を求め、必要な支援を検討している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や日中の利用、お泊り等をしてもらい、本人が馴染んでから入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「共に生活する」という理念のもと、食事、入浴等生活の全てにおいて、一緒に行うことを大切にしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居後も出来るだけ、家族に本人の状況を伝え、家族の出来る範囲で協力していただいている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・会話や意思表示が困難な入居者には、職員が間に入り、日頃の様子を伝える。 ・行事等には家族にも参加して頂ける様、働きかけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前利用していた通所介護事業所に継続して通い、馴染みの関係を続けていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食卓の位置やリビングで過ごす時には、相性等を職員が配慮し、楽しめる様にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事がある時には、声を掛ける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の立場に立って考える様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前の訪問を数回行い、本人・家族・ケアマネから話を伺い、それまでの暮らしぶりを把握する。 ・入居後は、本人から聞いた昔の話を書き留めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・一人ひとりの現在の心身状況を定期的にあセスメントしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・計画作成担当者とそれぞれの担当スタッフが定期的にカンファレンスを行い、本人及び家族の意向を反映させながら介護計画作成している。 ・その後、全体会議を行い、介護計画の周知徹底を行っている。	○	現段階で意向を伝えてくれる家族は少数である為、今後は家族の気持ちも引き出せるような関係作り等に取り組み、介護計画に反映させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日常生活やカンファレンス等で状態や状況に変化が見られた時には、随時見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	勤務の前にはケース記録等を全員が目を通して業務に携わる事を徹底し、情報を共有している。朝晩の申し送りを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	突発的な受診や外出についても出来るだけ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察や消防には、必要に応じての体制をとってもらえるようにしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	同一法人のデイサービスに通うことが出来る。現在2名の方が利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時には、連携できる体制が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に継続して受診できるようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>町内の精神科の医師へ、定期的に職員が相談を行っている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置し、定期的に健康管理を行っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>早期退院が出来る体制がある事を医療機関に伝え、出来るだけ入院が長引かない様に対応している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期についての方針等、現在検討中</p>	○	<p>医療連携加算の算定を検討中であり、併せて重度化や看取りについての方針について策定中である。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した場合や終末期についての方針等、現在検討中</p>	○	<p>医療連携加算の算定を検討中であり、併せて体制強化の準備中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	これまでの事例は無い為、実施していない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライドが傷付かないような対応を心掛け、排泄の誘導は、他の人に気付かれない様に心掛けする等、配慮している。 ・個人情報の扱いについては、決められた場所以外には、持っていない等、充分注意している。 		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が何をしたいのか、何に困っているのかを自分から伝える事の出来る関わりをしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まったタイムスケジュールではなく、個々の生活リズムに合わせている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	行きつけの美容院に行ったり、買い物へスタッフと外出した際、自分の気に入った服を購入してきている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の具材を用い、季節を感じられる献立にしたり、行事に合わせた料理にしている。 ・食事の時は、好きな唄等の音楽を流している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒については、入居時に習慣としている人がいなかった。 ・飲み物については常に数種類のものを用意し、本人選んでもらっている。 ・入居者と一緒に買い物に行き、食べたいおやつを選んでもらっている。 		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレへの声掛け、誘導をしている。 ・下着やパッド類は個々の状況に合わせて使い分けている。 		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日にちや時間を決めず、いつでも入れる状況を作っている。 ・職員も一緒に入浴し、裸の付き合いを大切にしている。 		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・起床、就寝の時間は決めておらず、それぞれの生活パターンに合わせた支援を行っている。 ・出来るだけ天気の良い日は外に出たり、散歩に行く等、活動量を増やしている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の家事で出来る部分をやって頂いている。(食器洗い・配膳・洗濯物を干す、たたむ等) ・毎日、食材を買い物に行く傍ら、自分の好きな洋服等を見てこられる方もいる。 	○	家族や本人から情報収集をもっと行って楽しみや役割を更に引き出していこうにしていきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出の際は、自分のお財布を持ち、好みの物を購入したり、外食出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・毎日、買い物には出掛けている。また、天気のいい日には散歩に出掛けている。 ・近所の酪農家宅に牛乳を頂くために毎日出掛けている。 ・デイサービスに遊びに行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・職員と共に飲食店(回転寿司、居酒屋)や行事(コンサート・イベント)に積極的に出掛けている。 ・年に一度、家族も一緒のお泊り会(温泉旅行)を計画し、行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から家族に連絡をとりたいと希望があった場合や会話が上手く出来ない方には、職員が間に入り必要な取り次ぎを行う。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・時間に関係なく、いつでも訪問してもらえるようにしている。 ・訪問時、会話が上手く出来ない方には、職員が間に入り日常の様子等伝えている。 ・希望があれば一緒に泊まったり、食事を一緒にして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ある程度は理解しているが、具体的な行為を正しく理解するという点では不十分である。	○	職員全体が正しく理解できるよう、研修会に参加したり、勉強会を開催し、取組んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外、施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に入居者の所在や様子を意識して、危険がないように状況の把握に努めている。</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者の状況に応じて対応策を考える。</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故や災害時のマニュアルを作成すると共に事故があった場合には、事故報告書を作成し、職員への周知を徹底し、事故の再発防止に努めている。</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>・緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知している。 ・職員は、救急救命講習を受講している。</p>	○	<p>新規採用者については、未受講の職員もいる為、早急に受講するようにする。</p>
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>・職員ミーティングにおいて具体的な避難経路、役割等について確認している。</p>	○	<p>入居者も一緒に避難訓練を行っていない為、検討する。</p>
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時だけでなく、身体状況等の変化に伴うリスクについて、その都度家族に説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・体調の変化へ異変について必ずケース記録に記入し経過をみていけるようにしている。 ・朝、晩の申し送り時にも必ず引き継ぎ、必要に応じて受診する。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・ケース記録と一緒に薬の処方時に出される一覧表と受診記録を別途作成し、閲覧できる場所に保管し、職員間で情報を共有できるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・下剤に頼るのではなく、ヨーグルトを食べたり、食事や手作りのおやつから繊維の多い食物を摂れる様工夫した献立にしている。 ・必要な方については、水分量のチェックをおこなっている。 ・身体を動かす機会を増やしている。	○ 便秘対策を常に心掛け、様々な方法を試しているが、まだ不十分であるため、今後は更に検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後の口腔ケアを行っている。 ・苔舌ブラシ、口腔洗浄液等を利用し一人ひとりの口腔状態に合わせたケアをしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・一人ひとりの食事、水分量をチェック表に毎回記録し、把握している。 ・その人のそしゃく、嚥下状態に応じた食事形態になるよう工夫している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	・外から帰った時は、手洗い・うがいをし、入居者と職員はインフルエンザの予防接種を受けている。 ・感染症のマニュアルを作成している。研修会にも出席し、出席した職員は、ミーティングにて内容を報告して周知している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・台所及び調理用具等熱湯消毒した後、調理を行っている。 ・まな板やふきん等は毎晩漂白し、清潔を保っている。調理担当者が責任をもって冷蔵庫も点検・清掃している。 ・食材については、毎日買い物に行くため、新鮮なものを食べて頂いている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の人達が出入りしやすい様、花や飾り付けを行い、明るい環境作りを心掛けている。 ・玄関内にベンチを置き、安心して靴の脱ぎ履ぎが出来るようにしている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・お正月にはメ飾り、雛祭りには雛飾りなど、季節毎に季節感が感じられる空間づくりをしている。 ・台所は、対面キッチンになっており、料理中の様子等が感じれる様になっている。 ・居間とつながった大きなテラスがあり、天気の良い日は日光浴や食事を摂る場所として利用している。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や玄関に椅子を設けたり、パーテーションを利用し、一人になりたい時になれるようなスペースを確保している。 		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時には使い慣れた家具や衣類、装飾品を持参してもらい、その方の生活スタイルに合わせた寝具類を使用している。 ・家族の写真やお手紙を飾り、その方が今まで大切にしてきた繋がりを身近に感じられるような工夫をしている。 	○	諸事情で、自分の私物を持ち込めない方もいるので、出来る範囲で個性やぬくもりが感じられるお部屋作りに取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・換気は随時行い、温度は利用者の様子を見ながら調節している。 ・居室には、消臭剤を使用している。 ・居間には、加湿器を使用し、各居室には洗濯物を干す等し、湿度を一定に保つよう努めている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・トイレや洗面台は既成のものではなく、高さ等を調節することにより、入居者に合わせた作りになっている。</p> <p>・手すりはあらかじめ設置せず、入居者の状況に応じ必要な所に設置できるようにしている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>・男性用小便器を設置し、洋式のトイレを認知できない方への工夫をしている。</p> <p>・どうしたら本人の力が活かせるのか検討し、日めくりを利用し、日にちがわかるようにしたり、文字盤見やすい掛け時計をかける等工夫している。</p>	<p>○</p> <p>状況が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合には、職員間で検討し直し、環境作り取り組んでいきたい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>・庭にテントを張り、天気の良い日には、外気浴を行い、隣のデイサービスの利用者の方と交流している。</p> <p>・庭に花を植えたり、こいのぼりを飾ったり、畑の作物と一緒に収穫する等、季節感を楽しめる工夫をしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ● ② 数日に1回程度ある ● ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● ② 利用者の2/3くらい ● ③ 利用者の1/3くらい ● ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ● ② 家族の2/3くらい ● ③ 家族の1/3くらい ● ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ● ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ● ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	① ほぼ全ての職員が ● ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ● ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ● ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ① グループホーム(住む)だけの機能では無く、小規模デイサービスと連携をとったり事業所内にヘルパーステーションを設置し、最後まで地域の中で誰もが普通に暮らしていける事をサポートしていきたいと考えている。
- ② 地域の障害者施設と連携し、その方たちが生き生きと働く事のできる就労の場として開放している。
- ③ グループホームの中でだけの人間関係にならないように入居者と職員が地域住民としての意識を持ち、積極的に地域に出掛けたり、月に一度デイサービスの利用者と一緒に、コーラスを開催している。
- ④ ヘルパーやデイサービスを兼務する職員を配置し、ヘルパーやデイサービス利用者がお泊りを利用する場合は、顔なじみの職員と一緒に付き添い、安心して過ごして頂けるようにしている。